

# 八王子城

## 八王子城御主殿跡の庭園について

八王子城主の居館があったとされる御主殿では、平成4、5年度に発掘調査が実施され、大型礎石建物が東西に並んで二棟確認されました。西棟では砂利敷きの通路を隔てた建物の北側に、大小の岩を配した枯山水の庭園が発見されました。東棟は西棟よりも大きな建物で、「主殿」と思われ、西棟は庭園を望む「会所」(接客用建物)であると考えられます。

さらに平成25年度に追加調査したところ、池が確認されました。一部未調査箇所があるため、池の全容の解明には至っていません。庭の中心となる景石は、以前の調査でも確認されていましたが、今回の調査では、池の護岸石や半島状に突出した湾曲部に大型の景石が立っている状況で確認されました。

八王子城跡の出土遺物は、約7万点を数え、内3万点は中国製陶磁器を中心とした舶載品です。中でも、全国唯一のベネチア製レースガラス器や、中国製の五彩磁器や瑠璃釉碗などは、後北条氏の貿易活動を示すものと評価されています。



◀八王子城御主殿で確認された池



◀ベネチア製レースガラス器

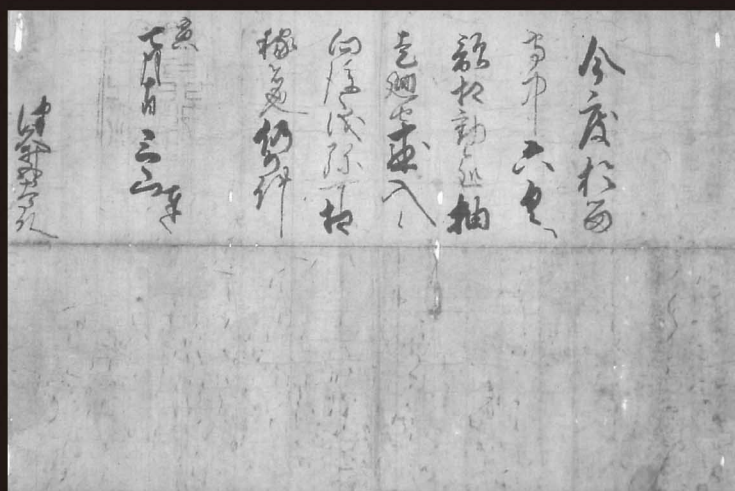


▲瑠璃釉碗の裏に描かれたウサギ

## 正龍寺所蔵の古文書7通 町指定文化財に指定！

正龍寺が所蔵する戦国時代の古文書のうち3通は、すでに昭和33年に「書翰3通」として町の指定文化財に指定されていましたが、平成29年2月1日に、新たに4通が追加され、「正龍寺文書」として名称も変更されました。

今回、指定された古文書は、鉢形城の城主であった北条氏邦の印判状(右写真)や、天正18年(1590年)に豊臣秀吉軍が鉢形城を包囲した際に発行した禁制があります。このほかに、7月29日付けの氏邦書状写と慶長5年(1600年)8月23日付け織田秀信感状も指定されました。どの古文書も歴史的資料として貴重なものです。



▲寅(永禄9年・1566年)7月10日付け 北条氏邦印判状

# 後北条氏の庭園

## 出土遺物を中心に

平成29年  
春季特別展

姉妹都市盟約締結記念事業

近年の小田原城御用米曲輪の発掘調査で、全国でも例のない切石敷を伴う庭園跡が検出されました。この発見は、戦国時代の庭園のイメージを大きく変えるものです。

後北条氏の大規模な城郭の中では、小田原城のほかに八王子城御主殿で庭園跡が発見されています。八王子城跡は落城後に開発されることがなかったため、庭園跡が良好な状態で残っています。多種多様な種類の膨大な遺物が出土しており、城主の日常生活を知る良好な調査例として研究者から高く評価されています。

鉢形城跡でも平成29年度から第2期保存整備事業として発掘調査が再開される予定です。

今回の特別展は、鉢形城でも同様の庭園跡の発見が期待されることから企画したもので、小田原城御用米曲輪や八王子城の優れた出土品を中心に展示します。小田原城主の四代当主氏政や八王子城主の氏照は、鉢形城主の氏邦からみると兄に当たり、この展示会は平成28年10月に締結された八王子市・小田原市との姉妹都市盟約締結記念事業として開催します。

**期間**  
3月18日(土)～  
5月14日(日)  
3月21日・27日、4月3日・10日・17日・24日、5月8日は休館

**場所**  
鉢形城歴史館

**開館時間**  
午前9時30分～午後4時30分(入館4時まで)

**入館料**  
一般/200円、高校生・大学生/100円(20人以上半額)(70歳以上の方、中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料)

**問い合わせ**  
鉢形城歴史館(0586-0315)へ。

# 小田原城

## 小田原城御用米曲輪の切石敷庭園について

戦国時代の御用米曲輪は四代当主氏政の隠居所であり、天正16年(1588年)に豊臣秀吉との軍事的緊張から居館を取り壊し、兵站用の「蔵」を建てた曲輪へと変貌を遂げた可能性があるとされています。色調の異なる切石をモザイク状に敷き詰めた庭園跡は全国でも類例がなく、後北条氏独特の切石文化を垣間見ることが出来る貴重な遺構であると評価されています。



▲御用米曲輪切石敷遺構



金箔手づくねかわらけ▶